3 物語1

単元のねらい

◆『竹取物語』に描かれた人物の心情などを読み取る。
◆文語助詞の種類と用法を理解する。
◆昔の人が月に込めた思いについて調べ、発表する。
・平安時代の仮名文で書かれた伝奇的な物語の文章を読み味わい、人物の心情を読み取らせる。
・文語助詞のうち、特に現代語と異なる助詞について学び、今まで学習した文法的知識を整理して、体系づける。
・古典文学の中で月がどのようなものとして捉えられているかを調べ、昔の人が月に込めた思いについて発表させる。
物語の原文を読み解く力を養うとともに、昔の人が月を見て何を感じていたか、どのように歌に詠んできたかを主体的に学ぶことをねらいとしている。

単元の構成

「竹取物語」から二教材を取り上げた。物語冒頭「かぐや姫の生ひ立ち」では、次々に展開する物語の流れを追い、文末表現にも着目する。物語後半部「かぐや姫の嘆き」では、会話文の構成と巧みさに気づかせ、登場人物の心情を読み取らせる。
「古文を読むために5」では、助詞、注意すべき言葉遣いについて説明している。古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりについて学習できる。
「古文の窓2　古典文学と月」では、新暦と旧暦の違いを解説し、月を詠んだ和歌や俳諧、月にまつわる文化習俗を紹介している。
「単元の言語活動3　月が詠まれた和歌を鑑賞する」では、月の呼び名を調べ、月が詠まれた「百人一首」の和歌を鑑賞する。調べ学

習やグループでの話し合いを通じて、主体的に学び、相互に学びを深めることができる。